



事務所 伊那市西町5016-2 Tel(72)0077 例会日 毎週木曜日 例会場 くぬぎの杜 Tel(78)1121  
 会長 藤澤秀敬 幹事 平澤泰斗 会報委員長 唐木 章 第2755回例会 2016.10.6 No.1418



## Rotary Serving Humanity

人類に奉仕するロータリー

2016-17年度 RI 会長テーマ

**ソング** 君が代 奉仕の理想

**四つのテスト** 川合 博 職業・社会奉仕委員

**ビジター・ゲスト紹介** 米山奨学生 アルズグリさん

**会長談話** 今日は残念なお知らせです。昨日朝、当クラブ元会員鈴木実さんがお亡くなりになりました。今年の5月まで38年間在籍し、その間会長も歴任され、多くの業績を残されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



さて先週の例会は職場訪問例会で、中部電力浜岡原子力発電所を見学してまいりました。早朝、伊那を出発するときは雨模様の天気でしたが、静岡県、御前崎は晴れで、参加された20名の会員の皆さん全員の日頃の行いが良かったからだと思います。当日は中部電力の宮澤所長さんと営業所の二人、そして浜岡の施設内を案内して頂いた内田さん、皆さんに大変お世話になり、丁寧な説明受け見学させていただきました。

2011年3月の東日本大震災、福島原発事故の後、原子力発電所の安全性の問題は大きく関心を集め、停止中の原子力発電所の再稼働については、厳しい安全基準、新規制基準へ適合するかどうか、原子力規制委員会の審査を経なくてはならなくなっているところがあります。

浜岡原子力発電所の安全性向上対策として実施された大きな工事について現場を見ながら説明をしていただきましたが、地震による津波対策として延長1.6Km、高さ22mの防波壁を設置し敷地内に海水が入らない様に作られていました。防波壁の基礎部分は岩盤の深さによって地下10mから30mの鉄筋コンクリートの「根入れ」がなされていて、1.6Kmで千数百億円という工事費用とのことでありました。そのほか原子炉建屋やタービン建屋に水が入らないよう気密性の高い大きな扉がつけられていました。また万が一の時でも原子炉を冷やし安全に停止できるよう、裏山を削った高台に発電機と燃料タンクを設置、必要な場所に移動で

きる電源車、注水用のポンプ車なども高台に何台も配置されていました。

10年後20年後、そして将来の望ましい電源構成(エネルギーミックス)はどうあるべきか、資源の乏しい日本は何がベストか考えたいと思います。

**入会式** 仁愛病院 理事長・院長 小松大介様  
(紹介者 神山公秀会員)



昭和48年5月27日生まれ。43歳。ご家族は奥様と男の子一人女の子二人。ご自宅は松本で、仁愛病院近くに家を新築中です。



日頃から大変お世話になっている神山先生のご紹介により入会いたします。お年寄りからお子様まで地域医療発展のために頑張っております。よろしく願いいたします。

(有)アイ・プラス 専務取締役 山崎秀亮様  
(紹介者 波多江崇史会員)



昭和50年11月19日生まれ。40歳。ご家族は奥様と女の子二人です。趣味は車のチューニング・ドレスアップ、マラソン、音楽と多彩です。



波多江様のご紹介で、また松崎様のホールインワンのご縁もあって入会いたします。よろしく願いいたします。

**誕生祝** 塚越 寛・小林孝行・松下正博・都築透・宮下金俊・宮澤弘明



**結婚記念日祝** 鈴木多門・山田 益・立石 誠・山口健雄・勝山修一・藤澤秀敬・矢島充博・山崎秀亮



**在籍祝** 松下正博(27)・塚越 寛(26)・中川博司(26)・都築 透(21)・山口健雄(15)



**幹事報告** 別紙をご覧ください。

**委員会報告**

**○第28回ライラ参加報告**

**竹腰哲夫地区ライラ副委員長**

9月24、25日に松本東ロータリークラブがホストで第28回ライラが開催されました。伊那からはローターアクトや長野銀行の皆さんが参加し、昨年同様大変盛り上がった大会になりました。



**○10月号「友」の紹介 平澤泰斗幹事(代理)**

**横書き P3** ポリオ撲滅に向けたジョン・F・ジャーム会長のメッセージ。

**横書き P7~** 「写真で振り返る日本のオリンピックとロータリー」

**横書き P14~** 「End Polio Now」

パキスタンでポリオと戦う記事の紹介。

**縦書き P4~** 「自分に誇りを持って相手を理解する」NPO 法人ロシナンテス理事長 河原尚行氏スーダンに日本の医療技術を持ち込んで、医療の向上に取り組んでいる記事の紹介。



**出席報告** 会員数 56 名 内出席免除 18 名 長欠 1 名 出席者 32 名 事前メーキャップ 13 名 出席率 95.75% 前々回 89.13% 変更なし。

**ニコニコボックス**

藤澤秀敬・平澤泰斗 新会員小松大介さん、山崎秀亮さんを歓迎致します。宜しく申し上げます。小松大介・山崎秀亮 入会させていただきます。宜しくお願い致します。

神山公秀 小松大介さんこれから宜しく申し上げます。

波多江崇史 山崎秀亮さんのご入会を歓迎致します。

藤澤秀敬・平澤泰斗 職場訪問例会には大勢の会員の皆様に参加して頂きありがとうございました。宮澤所長さん大変お世話になりました。宮澤弘明 9/29 職場例会では、早朝から夜遅く

まで遠く浜岡までお世話様になりありがとうございました。

松下正博 末っ子が来週結婚します。

矢島 勇 第28回RYLAに新入生3名参加させていただきました。貴重な経験が出来たと喜んでいました。ありがとうございました。

川合 博 10/12 伊那中央病院の北棟の起工式を行う事になりました。多くの皆様の御支援に感謝しております。

唐澤幸利 本日卓話をさせていただきます。

赤羽弘之 活躍する役職を頂いたのですが期待に添えず申し訳ありません。そろそろ復帰いたします。

波多江崇史 8/18 卓話の機会を頂きありがとうございました。

飯田 RC 松沢茂様 松崎さんのホールインワンコンペでは大変お世話になりました。万が一私がホールインしましたら、皆さんをお招きします。ゴルフ部9月コンペ 優勝 小松献臣・1位 松沢 茂元会員・2位 藤澤秀敬

在籍祝 松下正博・都築 透・赤羽弘之

ラッキー賞 神山公秀・唐澤幸利・小松献臣・立石 誠・松崎敏彦・宮澤弘明・山崎秀亮



**指名委員委嘱** 藤澤会長から指名委員が発表された。

**会員卓話** 唐澤幸利会員

**演題「私の履歴書の背景」**

「私の履歴書」風に話をせよということで、伊那燃料の話や出光興産の話を中心に、私のことも少しだけ織りまぜながらお話をさせていただきたいと思えます。伊那燃料は昭和26年に私の祖父唐澤利男が創業いたしました。昭和57年に亡くなるまで社長を務め、2代目は父唐澤東洋明が昨年まで社長を務め、私が3代目の社長に就任しました。祖父利男は東春近の農家の二男坊として明治38年に生まれ、成長後辰野の戸沢米穀店に丁稚にだされたそうです。仕事ぶりが認められたようで、のれん分けしていただき、伊那に戻り「戸沢」という屋号で米屋をはじめました。その後、薪や炭といった家庭用燃料も商材に加えて商いをして



いた折、日中戦争・第二次世界大戦へと突入する時代、米や燃料は統制商品となり、当時のお仲間とともに上伊那燃料小売統制組合を組織して配給業務を担当しておりました。

戦後昭和 25 年に統制が解け、組合の解散を進め、翌昭和 26 年に伊那市旭町にて伊那燃料株式会社を創業いたしました。当時の家庭用燃料の主役は薪・炭・練炭で、当社の主力商品も薪・炭・練炭だったわけですが、時代の流れで「石油製品」販売を期待され、創業から 2 年後の昭和 28 年に現在の伊那市中央区の地に事務所を移転し、事務所前にポータブル給油機を設置して石油製品販売を開始し、昭和 30 年に出光興産と特約販売店となり、翌昭和 31 年に固定式給油機を設置した本格的給油所を竣工いたしました。

昭和 30 年当時、全国に自動車はまだ 150 万台（うち乗用車は 68 万台）しかなく、給油所つまりガソリンスタンドは 1729 か所しかありませんでした。自動車はその後昭和 43 年に 1000 万台突破、昭和 47 年に 2000 万台、平成 27 年には自動車全体で約 8000 万台（うち乗用車約 6000 万台）まで増加しております。いわゆるモータリゼーションの波に乗り、当社は昭和 35 年の辰野給油所建設を皮切りに多店舗展開を進め、その後平成 7 年に大芝高原給油所を竣工し上伊那郡内に 11 か所の直営給油所と 4 社の販売店を持つ給油所ネットワークをつくりあげました。

私は昭和 44 年 8 月 8 日に誕生いたしました。実はこの日は、飯島町に当社の 4 か所目のスタンドをオープンした日です。昭和 40 年代は給油所の建設が続いた時期で、私が小さいころに家族旅行というものを一度もした記憶がありません。

2 度のオイルショックも乗り越え、創業から 45 年間程は石油業界の発展とともに当社も順調に社業を拡大することができたようです。

自動車台数は今も伸び続けているのですが、全国給油所数は平成 6 年度末の 60421 か所をピークに減少が進み、平成 27 年度末には 32333 か所とピーク時の 53% まで減少してきております。

自動車の数は増え続けているのになぜ燃料業界は不況なのか皆さんも不思議だと思いませんか。当社を含め燃料業界の苦境は平成 7 年から始まります。バブル崩壊とともに日本経済全体が不況になるわけですが、さらに業界を苦しめることになるのが、石油製品の需要減と規制緩和です。

実は平成 7 年をピークに石油製品の国内需要は減少を始めるのですが、時を同じくして業界の規制緩和が始まります。規制緩和により異業種が

参入できるようになり、松本市にスーパーダイエーが国内第一号となるスタンドを新設して安値で乱売し、全国ニュースになったことを覚えている方も多いと思います。また、その数年後にセルフスタンドの建設が可能になりました。

規制緩和により何が起きたか。過当競争つまり石油製品の安値乱売が発生し、給油所数が激減していきました。6 万か所を超えていた給油所の数が昨年度末現在 3 万 2 千か所程度まで減っており、経営が苦しくて店を閉めざるを得ない状況が 20 年以上続いているということです。

当社でも計 15 か所の給油所ネットワークを持っていましたが、現在は直営 4 か所、販売店 2 か所しかありません。

ちなみに私が大学を卒業し社会人になったのが平成 4 年、出光興産での修行を終え、伊那に戻ったのが平成 11 年 3 月です。つまり、私の伊那燃料でのキャリアは、ほぼスタンドの閉鎖の推進ということになります。つまり会社の致命傷にならないように事業の縮小をスムーズに行ってきたというところでして、仕事としてはあまりおもしろくない仕事をたんとこなしてきたというところでしょうか。

「自由経済だから競争に負けた時代遅れの給油所は市場から撤退すればいいじゃないか」とおっしゃる方も多いのですが、そう簡単にわりきれないところがございまして、実際 5 年半前に発生しました東日本大震災が我々石油業界にとって自分たちを省みるきっかけになりました。つまり、「このまま給油所を減らし続けていいのかどうか？」と。東日本大震災の際交通網が寸断され、また一部の製油所や出荷基地が災害の被害にあり、伊那で約 1 週間、東京では約 1 か月石油製品の供給に支障が生じました。「給油所過疎地」と言って市町村に給油所が 1 か所しかない地域も全国的に増え、社会問題になっていましたが、市街地でもこれ以上給油所が減ってはいざという時に市民生活を守れないということに気づいたわけです。そこで、これ以上給油所の数を減らさないよう、不採算だからといって簡単に給油所を閉鎖してはいけないのではないかと私たちは考えるようになってきました。

石油メーカー各社も「石油製品の需要減」ということに対しては危機感を抱いておられて、業界再編ということがたびたび繰り返されてまいりました。さらにここへきて原油価格の乱高下が石油メーカーの体力を一気に奪っておられて、ここ数年の大型合併への流れとなっております。